

Step Up

ステップ・アップ

NO.22
2012.2.1

下関病院 広報委員会



【TOPICS】

- 特集① 4病院合同研修会
 - 特集② 下関精神科学術講演会の報告
 - 特集③ 中国四国精神神経学会の報告
 - 特集④ ふれあいフェスティバル
- ・行事報告
 - ・スタッフのわ

山口県下関市富任町6丁目18番18号 TEL : 083-258-0338 FAX : 083-259-8876 <http://www.shimobyou.jp/>

下関病院多目的ホールにて4病院合同研修会を行いました

平成23年12月10日、下関病院にて4病院合同研修会が行われました。

そこで、平成23年8月30日に、障がい者制度改革推進会議総合福祉部会より出された「障害者総合福祉法の骨格に関する総合福祉部会の提言」、いわゆる骨格提言に関する概要及び今後の展望についての研修を行いました。

この障害者総合福祉法の骨格提言では、「障害者権利条約」と「基本合意文書」の2つの文書を前提に、当事者や有識者で構成された部会で検討が行われ、6つの目標が掲げられました。その中で1番のポイントとされるのは、実質的に制度を運用していくために、安定した予算の確保を行わなければならないところであり、経済協力開発機構（OECD）加盟国における平均並みを確保するという大きな目標が挙げられています。障害者の費用負担を軽減していくためには、極めて重要なところであり、国にとっても財源確保は大きな課題になることとされています。また、支援体系、サービスの中身に関しては、障害者自立支援法の体系である「介護給付」、「訓練等

給付」、「地域生活支援事業」というサービス体系は、「全国共通の仕組みで提供される支援」と「地域の実情に応じて提供される支援」というサービス体系に変わり、全国どこでも同じサービスを受けることができるものと、市町村の特性や市町村の創意工夫で、実施が可能となるサービスに分けるということが記されています。そして、就労支援や相談支援についても、新しい支援の形が示されていますが、これからの障害者総合福祉法には、障害者が利用しやすいものであって、障害者が社会の一員として暮らせる共生社会の実現に、結びついていくものとなるよう期待します。



精神保健福祉士
津村 繁晴

募集

4月1日の開設を目指し、特別養護老人ホームの建設が急ピッチで進められています。入所者も若干の空きがありますが、介護スタッフも募集中です。お近くに入所希望や介護職として働きたいという方がおられましたら、事務所までお知らせいただきますようお願い申し上げます。



認知症専門外来について

下関病院では認知症の専門外来を行っています。在宅の方はもとより、医療、福祉施設に入院、入所中の方でも結構ですので、認知症でお困りのことがありましたらお気軽に当院外来受付までご相談下さい。

下関精神科学術講演会の報告



平成 23 年 11 月 12 日に下関精神科学術講演会が開催されました。本講演会では、「抗うつ薬の諸問題」と題して、防衛医科大学校教授 野村 総一郎先生が講演されました。

野村先生は、うつ病治療のスペシャリストとしてテレビや新聞、雑誌などのメディアで拝見する機会が多い著名な方であり、講演内容は、抗うつ薬の使用上の注意点、うつ病の病態仮説の現状など、抗うつ薬をめぐる様々な事情を俯瞰する大変興味深いものでありました。

近年、たくさんの新規抗うつ薬が使われるようになりましたが、薬物療法の是非は賛否両論であり、いろいろな意見が出てきているようです。例えば、抗うつ薬の効果を再検証した論文によると、重症例では、抗うつ薬の有用性が認められましたが、軽症の患者さまでは、その有用性の評価が難しいという報告もありました。このことから、薬物療法だけではなく精神療法がまず第一に必要であり、心理療法も効果的であるように思いました。

一方で、抗うつ薬の有効性に関する最近の報告では、12 種類の抗うつ薬について網羅的な解析がなさ

れていること、医学的根拠に基づいた各種疾患の治療ガイドラインが増えていることを挙げられました。診断についても、大うつ病、双極性障害、非定型などのタイプによって治療法を見極めることが必要で、治療の選択肢が以前より幅広くなっていると解説されました。

また、近年盛んに研究されているうつ病の病態仮説についても報告されました。神経可塑性仮説とあって、脳内の神経細胞がさまざまな状況に応じて変化するというものです。しかし、抗うつ薬の投与によってどのような現象が脳内で誘導され抗うつ効果が得られるのかは、不明な点も多いようです。ストレスも深く関与していると考えられ、今後、作用メカニズムの解明が新薬開発のヒントになると示唆されました。

今回の講演をとおして、うつ病治療はいろいろな方法があり、根拠に基づいた治療と臨床での印象が必ずしも一致しない場合があるので、両者をバランスよく考慮するためにも知識や経験を積み重ね、感性をみがく必要があると感じました。

薬剤部 江藤 英倫

第 52 回中国四国精神神経学会の報告

この度、第 52 回中国四国精神神経学会において「認知行動療法での個別性に対応したアセスメントの必要性について」と題した発表を行ないました。認知行動療法とは、近年TVでも紹介されることのある心理療法の 1 つです。特徴として、状況、行動、認知、情緒、身体反応の 5 つの側面から個人の問題をアセスメント (assessment:直訳すると評価、査定という意味です) するという点があります。

そこで今回の発表では、アセスメントの際にマニュアル的に 5 つの側面を取り挙げるだけでなく、「どんなことがあって、ある状態になって、それからどうしようと考えて、その後どうしたか」といった、

時間の流れを整理することが重要になるケースがあるという報告を行いました。

日々の取り組みをこういった発表へと結びつけることできるのは、真剣に認知行動療法や心理療法に取り組まれる患者さんの協力があったことだと思いません。今後も心理士としてより良い貢献が出来るように、切磋琢磨して行きたいと思えます。

第52回中国四国精神神経学会

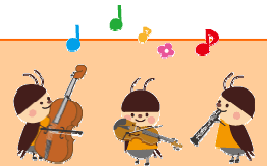
平成23年11月17日～19日

会場：高知会館

心理技術部 中谷 真弥



第15回ふれあいフェスティバル



11月5日(土)、下関病院にてふれあいフェスティバルを開催しました。あいにくの雨模様で、バザーやフリーマーケットは急遽屋内で行うこととなりましたが、たくさんの来場者が参加され大変賑わいました。

また、下関工業高校吹奏楽部の皆様にはステージでの演奏、合唱をして頂きありがとうございました。下関病院では、これからも楽しいイベントを開催していきますので、皆さん是非ご来場してみてください。

公開講座『うつとストレスの対処法』

臨床心理士 杉本 正志

今回は『うつとストレス対処法』という題でお話させて頂きましたが、予想以上に多くの方にご来場頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。さて、この度は広報委員より「講演を終えての感想を書くように」とのお達しを受けましたので、短い“あとがき”のようなものを書かせて頂こうと思います。

今回のテーマであった“うつ”や“ストレス”という言葉は、日常的に用いられる専門用語の一つだと思います。それらが広く用いられ、認知されるようになったのは好ましいことなのかもしれません。しかし、“うつ”や“ストレス”という言葉が日常語と化したことによって、本来は正常な反応であるはずの喪失による悲しさや寂しさといった抑うつ的情绪までが“うつ”として扱われたり、苦しみの背景にある様々な不安や葛藤が“ストレス”という言葉だけで片付けられるようになってはいないでしょうか？

私たちが生きていく中では悲しむべき悲しみというものがあるでしょうし、どれだけ言葉を重ねても説明しきれない思いや気持ちがあるように思います。自分の中にある“うつ”や“ストレス”についてもっと考えてみたいという方は、遠慮なく、当院へご相談頂ければと思います。



下関工業高校吹奏楽部の皆様に演奏して頂きました。日頃聞けない生演奏を聞くことができとても良かったです。



農園活動で収穫した野菜を販売いたしました。どれも特大サイズであったという間に完売しました。



各種バザーも大変盛況でした。デイケア活動で作った作品は、作成者の心がこもっており、どれもすばらしい作品でした。

行事報告



●クリスマス会



12月16日（金）下関病院4階多目的ホールにてクリスマス会が行われました。各病棟、合唱やダンス、ハンドベル、クリスマスアート等、例年にない程の趣向を凝らした出し物ばかりで、大いに盛り上がりました。それぞれ練習の成果が発揮でき、出し物終了後はホッと安心した表情が伺えました。また託児所の子ども達によるお遊戯はとても可愛く、見ている患者さんやスタッフの表情も、自然と笑みがこぼれました。今後も季節行事の一環として、クリスマス会を行っていききたいと思います。



●冬祭り



12月28日（水）毎年恒例のもちつきを行いました。比較的暖かい天候の中、患者さんやスタッフの協力のもと、沢山の餅が出来上がり、午後からはぜんざいとして美味しく頂きました。下関病院、豊松苑それぞれの正面玄関にも大きな鏡餅をお供えしました。



●院外活動(初詣)



1月は患者さんを募り、初詣に出かけました。下関市内の神社で参拝し、今年1年を祈願しました。お守りやおみくじを購入し、みなさんがとても良い表情をされていたので、今年は良い年になるに違いありません。



連載

スタッフでつなげる、趣味のはなし。



つなげよう！スタッフのわ

今回は【石田 健 先生】です！

今年の下関市医師会雑誌の新年号の表紙に毎年人知れず師走に彫っていた私の干支の竜が選ばれました。毎年文化の日にかかれる医師会展示会の作品の中から人気投票で年4回発行の雑誌の表紙が決まります。油絵、写真、版画、俳句、趣味のコレクション、書画、骨董、リトグラフ、パンフラワー等を、先生や先生の奥さんたちが

出品されます。特に先生の奥さんたちの作品はもてあます才能と努力と資金を感じます。ぜひ皆さんもでかけてください。

→次は看護師（外来）の

今坂 万里さんです

下関市医師会報

新年号
2012 No.289



編集後記

今号は研修会や学会の報告が多く、職員が患者様に普段見せる顔とはまた違う面をお伝えすることができたかと思えます。内容は難しいものが多いですが、なるべくわかり易い言葉で掲載するよう努力してまいります。今後の報告にもご期待下さい。（広報委員 山藤）

